

通期の見通し

経営課題解決のためのIT活用

今後の経済状況につきましては、企業収益に影響を与える為替や原油価格、米国経済等の動向に注意する必要があるものの、企業の設備投資が堅調に推移し個人消費も回復傾向にあることから、国内景気は緩やかながらも拡大基調で推移するものと予想されます。

こうした中で、経営課題解決のためのIT活用は企業規模の大小や業種業態を問わず不可欠な状況にあり、金融商品取引法(日本版SOX法)への具体的な取り組みが始まったことから内部統制体制構築のためのIT投資が増加することが期待されています。また、回線の見直しを含む情報システムインフラの更新需要も引き続き底堅く推移するものと思われる。

このような環境において当社グループは、独自開発の顧客管理及び営業支援システム「SPR」をフルに活用し、お客様のニーズや当社グループの対応状況を正確に把握し、付加価値の高いシステム提案や的確なお客様サポートを行い、既存のお客様とのさらなる取引拡大と新規顧客の開拓に努めてまいります。

具体的な取り組み

具体的には、システムインテグレーション事業では、複写機、コンピュータ、FAX、電話機、回線などを組み合わせた複合システム提案と、情報セキュリティ関連ビジネス、ナレッジマネジメントシステム「ODS21」、統合型基幹業務システム「SMILE」、CADシステム等の重点戦略事業に引き続き注力いたします。

サービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」やサポート事業「たよれーる」といったストック型ビジネスをさらに強化してまいります。

運営面では社内情報システム投資を積極的に行うとともに、営業支援体制のさらなる強化やシステム開発案件のプロジェクト管理強化、エンジニアのサポート品質及び生産性の向上等を図ってまいります。

業績見通し

以上により、通期の連結業績見通しといたしましては2007年2月1日に発表した通期の業績予想を上方修正し、売上高4,648億円(前年同期比7.2%増)、営業利益290億円(前年同期比10.9%増)、経常利益293億70百万円(前年同期比10.9%増)、当期純利益172億40百万円(前年同期比10.4%増)を計画しております。

セグメント別の売上高では、システムインテグレーション事業が2,766億40百万円(前年同期比5.0%増)、サービス&サポート事業が1,859億円(前年同期比10.2%増)、その他の事業が22億60百万円(前年同期比51.6%増)を計画しております。

売上高・利益計画

(単位:百万円)

	2006年12月期	2007年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
売上高	433,617	464,800	+7.2%
営業利益	26,158	29,000	+10.9%
経常利益	26,494	29,370	+10.9%
当期純利益	15,621	17,240	+10.4%

セグメント別売上高計画

(単位:百万円)

	2006年12月期	2007年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
システム インテグレーション事業	263,425	276,640	+5.0%
サービス&サポート事業	168,701	185,900	+10.2%
その他の事業	1,490	2,260	+51.6%